

鈴木スポーツ庁長官ビデオメッセージ

Olá, todos. Sou Daichi Suzuki, Chefe da Agência de Esportes do Japão.

今回、日本とブラジルとの間で協力覚書が署名されますことを大変うれしく思います。

現在、両国間では、ブラジルの学校教育に柔道を導入するプロジェクトが進んでいます。これは、日本が官民連携して行っているスポーツを通じた国際貢献プログラム「スポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）」のひとつです。SFTでは、世界のあらゆる世代の人々にスポーツの価値を伝え、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを広げ、スポーツの力でよりよい世界を作ることを目指しています。

ブラジルでは、日本発祥のスポーツである柔道の人気が高く、また、教育的価値の高いものとして柔道への期待が高いと聞いています。そうした中で、ブラジルの学校教育に柔道を導入すべく、日本人指導者をブラジルに派遣したり、ブラジル人指導者を日本に招聘したりする等して、講習会を行っています。

こうした柔道の交流を含め、あらゆるスポーツの交流が、今回の覚書の署名を契機として、ますます発展することを期待します。

さあ、今年はいよいよ日本でオリンピック・パラリンピックが開催されます。

私は背泳ぎの選手として、17歳で1984年のロサンゼルス大会に、21歳で1988年のソウル大会に出場しました。当時は日本では金メダルなんてとても無理という雰囲気があり、また、私自身腰痛で一時期寝たきりになるといった苦難もありましたが、その中でも「オレはやってやる！」と思い続け、練習に励み、夢を実現しました。

オリンピック・パラリンピックは世界最高峰のスポーツの祭典です。世界の一流アスリートたちによる真剣勝負には、メダルを争う勝負以外にも、世界新記録や世代交代、アスリート同士の友情など、毎回見る人を感動させて止まない様々なドラマが生まれます。

4年前のリオ大会は、私も観戦しましたが、そこで生まれた様々なドラマに感動するとともに、ブラジル側のホスピタリティーにも大きな感銘を受けました。リオから東京へ。私達は、リオ大会で盛り上がったオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを承継し、東京大会でこれをますます大きなものにしていきます。

スポーツには世界と未来を変える力があります。実際、1964年の東京大会は

日本を大きく変え、世界を強く意識する契機になるとともに、高度成長の弾みとなりました。2020年の東京大会では、成熟国家となった日本が、「すべての人が自己ベストを目指し」、「一人ひとりが互いに認め合い」、「そして、未来につなげよう」を3つの基本コンセプトとして、史上最もイノベーティブで世界にポジティブな変革をもたらす大会を実現します。

ブラジルの皆さん、是非、東京大会を観戦しに日本に来てください。心から歓迎します。または、各種メディアを通じて観戦し、感動を分かち合い、一緒に盛り上がりましょう！

Aguardamos a sua visita ao Japão neste verão!